

取扱説明書：Ver 1.01

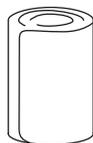
TP-660IV

リビングシェル ロング Pro. アイボリー



このたびはスノーピーク製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。この製品はキャンプ用シェルターです。安全にご使用いただくためにも必ずこの取扱説明書をよく読んでからご使用ください。また、読み終わった後も大切に保管してください。製品には万全を期しておりますが、フィールドでご使用する前に安全な場所で組立、取扱い方法及び付属品の確認をしてください。説明内容で理解できない点及び製品に不具合が確認された際には、直ちに使用を中止しご購入いただきました販売店様もしくは弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

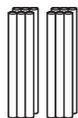
■セット内容



本体×1



ルーフシート×1



Aフレーム×2



Cフレーム×2



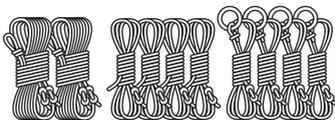
テントフレーム×1



アップライトポール
(190cm×2)



ジュラルミンペグ
(21cm×26)



自在付きロープ
(二又用7m×2、3.5m×4、リング付2m×4)



シーム
グリップ剤×1



フレームケース×1



キャリーバッグ×1



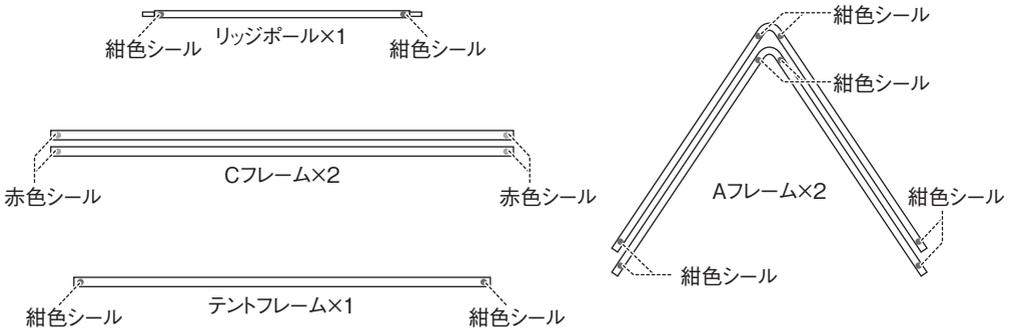
ペグ
ケース×1



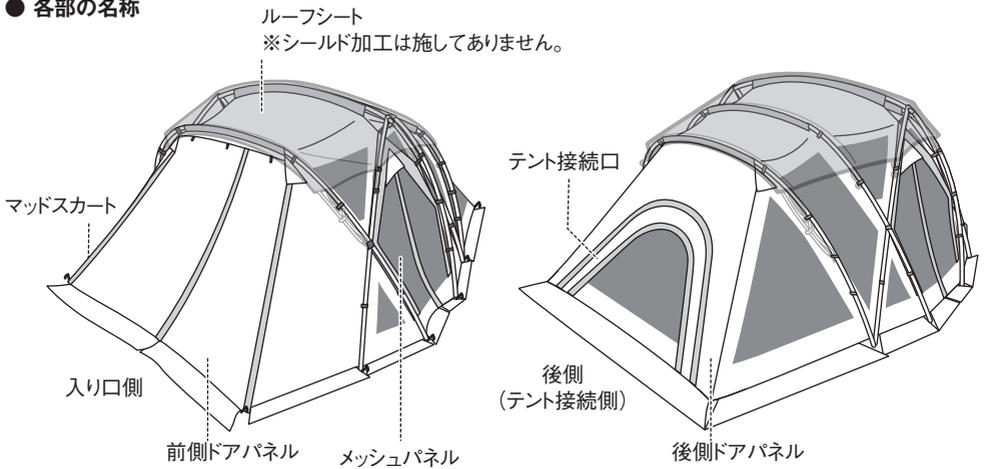
取扱説明書
(本書)×1

セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携帯することをお勧めします。

● フレーム構成



● 各部の名称



ご使用前に よく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

⚠ 危険 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

⚠ 警告 場合により重大な事故に至る行為を示します。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

取扱上の注意

⚠ 危険 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

- このシェルターの素材は難燃性ではありません。シェルター内では燃烧式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなどの裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化中毒などの恐れがあり大変危険です。
- シェルター内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。



⚠ 警告 場合により重大な事故に至る行為を示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、風の強い時や悪天候が予想されるときは速やかに撤収して安全な場所へ避難してください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。火災や熱中症などの危険があります。
- 天候によりシェルター内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、細心の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な洪水や氾濫などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。



⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 本製品は常設用ではありません。シェルターの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 日差しによりシェルターの表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分にご注意ください。
- 焚火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。設営・撤収の際には、周囲に火気がないことを確認してください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- シェルターの設営・撤収の際は、風に飛ばされないようフレームをしっかりと支えて作業してください。フレーム先端のハネ返し等で思わぬ事故に繋がる恐れがありますので、必ず周囲の安全を確認して作業してください。作業は必ず2人以上でおこなってください。
- ペグとロープでしっかりとシェルターを固定してください。
- 薄い生地を使用していますので、生地を引っ張りすぎると破損する恐れがあります。ご注意ください。
- 足もとのビルディングテープ、ロープやペグ等にはご注意ください。足を引っ掛けて転倒し、思わぬ事故の原因となります。

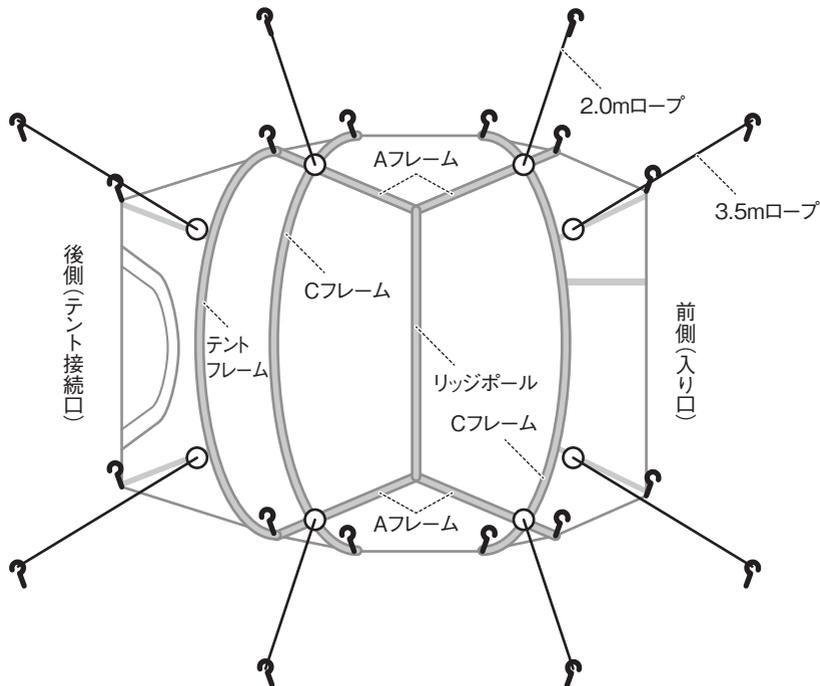
使用前の準備

● シームグリップ剤による目止め

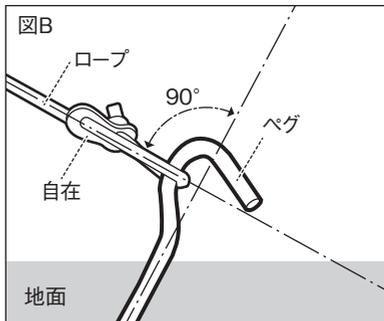
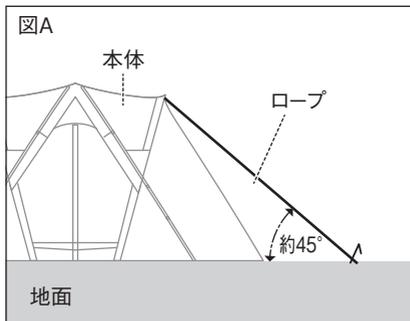
縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、ループやトグルを縫い留めている縫製部、ファスナーフラップを縫い留めている縫製ライン等は、製造の都合上または構造上、シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が浸入することがありますので、必要に応じて縫い目にシームグリップ剤(目止め液)を塗布してください。シームグリップ剤は時間とともに硬化していきます。剥離した時は塗布しなおしてください。指定以外の場所から侵入した場合は、必要に応じて目止めを行ってください。

● 自在付ロープ、ペグダウンの位置

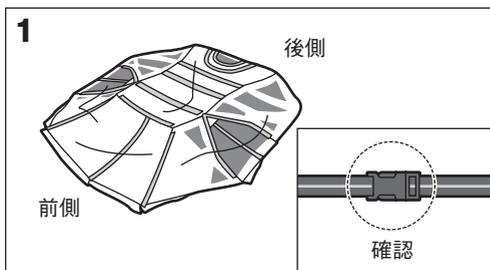
自在付ロープの固定、ペグダウンは下図のように行ってください。



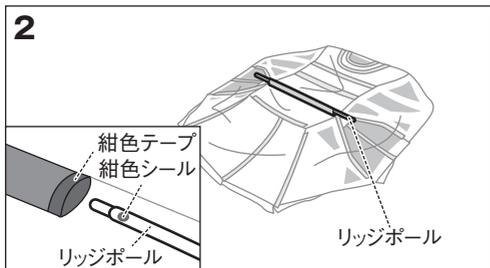
ペグダウンはシェルターからできるだけ遠くに行ってください。設営したとき、ロープの角度が地面に対し約45°となるのが理想的なペグダウンの位置です。〔図A〕また、ペグを打ち込む角度はロープに対して90°になるようにペグダウンします。〔図B〕



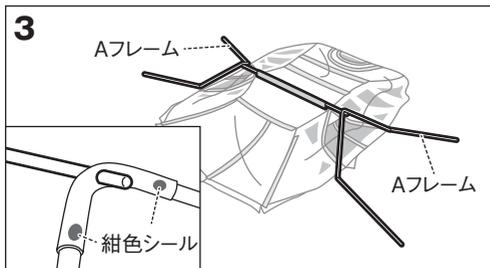
設営の手順 より安全に設営するためにも必ず2人以上で設営してください。



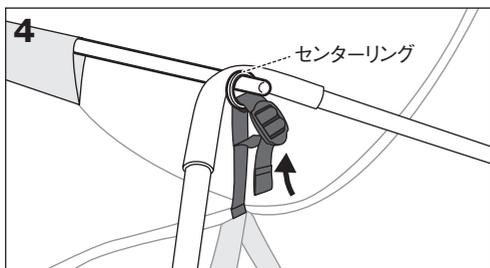
本体を広げます。
本体を広げます。前側、後側の向きを考慮してください。このとき、ビルディングテープのバックルがきちんと留まっていることを確認してください。



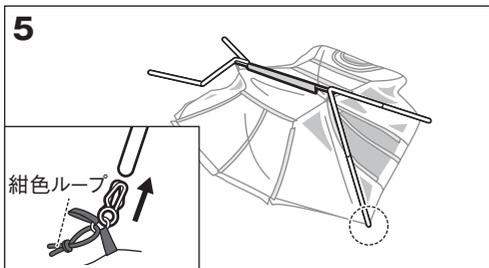
リッジポールをスリーブへ差し込みます。
フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れて」ください。引っ張ると各ジョイントが抜けますのでお止めください。



Aフレームをリッジポールに接続します。
Aフレームに付いている紺色シールが外側に向くようにリッジポールを差し込みます。リッジポールの先端が最後までAフレームに差し込まれている事を確認してください。このとき、Aフレームを半分くらいの高さまででジョイントしておくこと、後行程がスムーズに行えます。

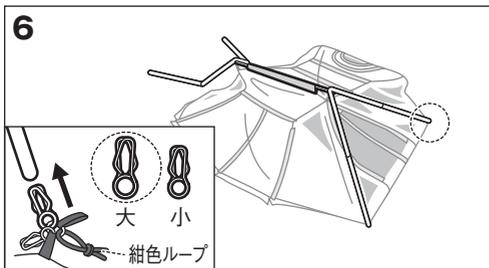


センターリングを突き出たリッジポールに掛けます。
本体に付いているセンターリングを、Aフレームから突き出たリッジポールに掛けます。このとき調整ベルトを緩めておいてください。



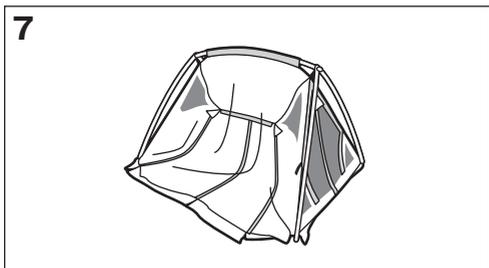
Aフレームを全てジョイントし、前側のピンを差し込みます。

Aフレームの先端に本体ボトム部(前側)の紺色ループが付いたピンを差し込みます。フレームとピンの上に指を挟まないよう気をつけてください。



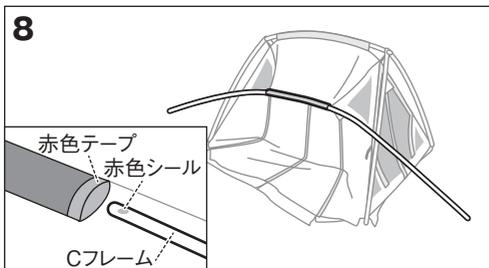
Aフレームに後側のピンを差し込みます。

Aフレームの先端に本体ボトム部(後側)の紺色ループが付いたピンを差し込みます。ピンは大小2種類ありますが、大きい方を差し込んでください。フレームとピンの上に指を挟まないよう気をつけてください。



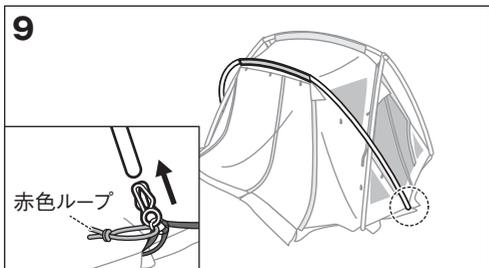
もう一方のAフレームにもピンを差し込み、本体を立ち上げます。

もう一方のAフレームを全てジョイントし、「5」「6」同様にピンを差し込み、本体を立ち上げます。このとき、Aフレーム端部をしっかりと動かないようにおさえてピンを差し込んでください。無理に持ち上げると反対側に荷重がかかり、フレームが破損する恐れがあります。



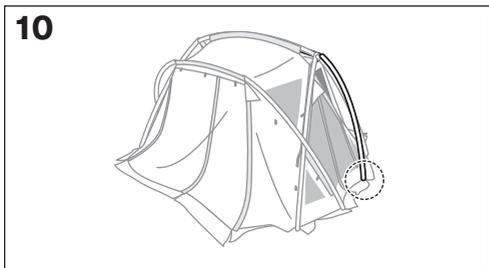
Cフレームを前側のスリーブに通します。

フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れて」ください。引っ張ると各ジョイントが抜けますのでお止めください。このときCフレームがAフレームの外側になるように通してください。



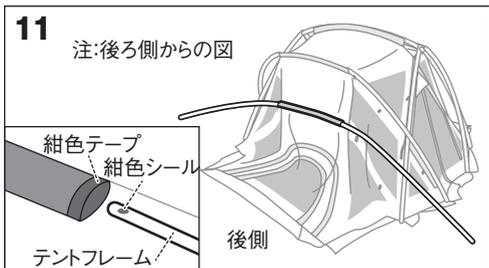
Cフレームにピンを差し込みます。

Cフレームの先端に本体ボトム部の赤色ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンに指を挟まないよう気をつけてください。



もう一方のCフレームにもピンを差し込みます。

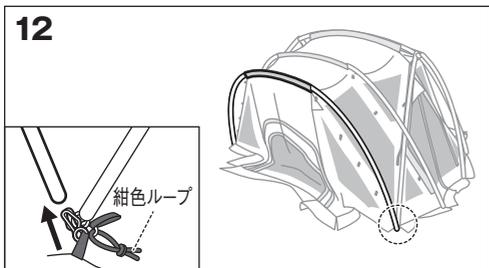
もう一方のCフレームの先端に本体ボトム部の赤色ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンに指を挟まないよう気をつけてください。



本体後側にあるスリーブに

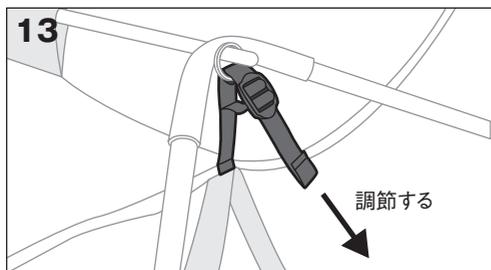
テントフレームを通します。

フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れて」ください。

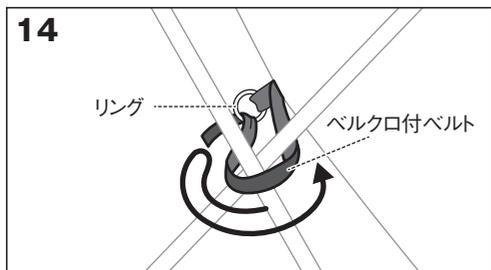


テントフレームにピンを差し込みます。

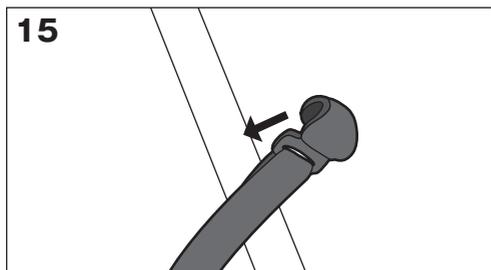
テントフレームの先端に本体ボトム部の紺色ループが付いたピンを差し込みます。ピンは大小2種類ありますが、残った小さい方を差し込んでください。フレームとピンの間に指を挟まないよう気をつけてください。



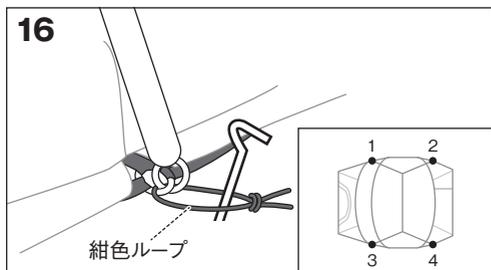
センターリングのベルトを引き、調整します。
 「4」でリッジポールに掛けたセンターリングのベルトを引き、調整します。



AフレームとCフレームの交点をベルクロで留めます。
 AフレームとCフレームの交点を本体に付いているベルクロで留めます。このとき、2本のフレームを束ねるようにベルクロを通します。

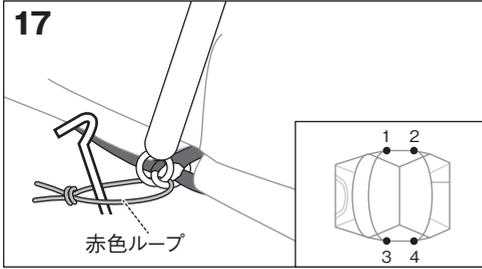


本体に付いているフックをフレームに掛けます。
 フライシートに付いているフックをそれぞれ本体フレームにかけます。このとき、上の方から順にフックを掛けて行くと作業がスムーズです。



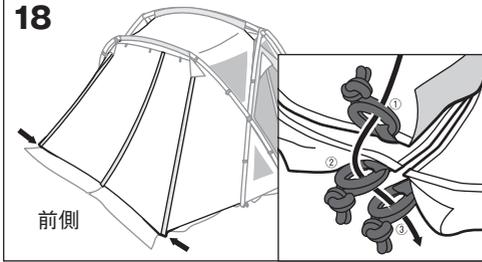
紺色ループをペグダウンします
 本体ボトム部分4カ所にある紺色ループをペグダウンします。ペグダウンの位置は3ページの「自在付ロープ、ペグダウンの位置」に従ってください。

17

**赤色ループをペグダウンします**

本体ボトム部分4カ所にある赤色ループをペグダウンします。ペグダウンの位置は3ページの「自在付ロープ、ペグダウンの位置」に従ってください。

18

**ドアパネルのボトム部分をペグダウンします。**

ドアパネルのボトム部分にあるゴムループをペグダウンします。(4カ所)

その際、上から①ドアパネル(大)、②メッシュパネル、③ドアパネル(小)の順でペグを通してください。

ペグダウンの位置は3ページの「自在付ロープ、ペグダウンの位置」に従ってください。

19

**後側のボトム部分をペグダウンします。**

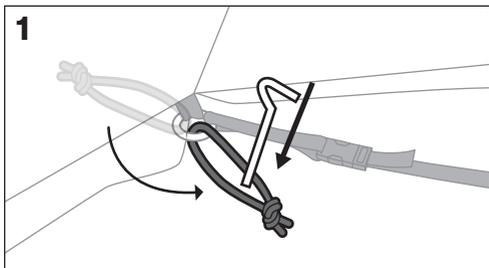
後側のボトム部分にあるゴムループをペグダウンします。ゴムループは片側3つありますが、一番外側のゴムループをペグダウンしてください。ペグダウンの位置は3ページの「自在付ロープ、ペグダウンの位置」に従ってください。

20

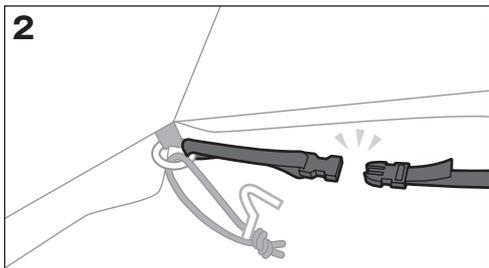
**ロープをペグダウンし、全体を調整して設営完成です。**

ペグダウンの位置は3ページの「自在付ロープ、ペグダウンの位置」に従って、ロープをペグダウンし、最後に全体を見て、調整ベルトの締め具合やロープの引き具合などを調整して、設営の完了です。

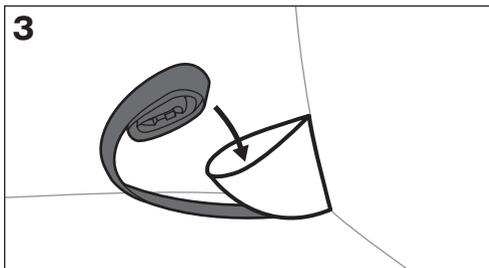
ビルディングテープを外す場合



ペグダウンの位置をシェルター内側へ打ちかえます。シェルター外側にペグダウンしたペグを内側へ打ちかえます。ビルディングテープを外した際、シェルターが外側へ広がるのを防ぐためです。

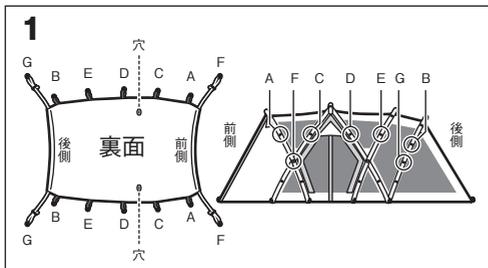


ビルディングテープを外します。ペグを内側へ打ちかえた事を確認し、ビルディングテープを外します。



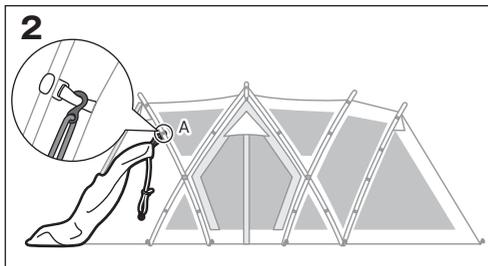
ポケットへ収納する
外したビルディングテープは丸めて、収納ポケットへ入れます。

ルーフシートの取り付け ※ルーフシールドはシールド加工は施してありません。



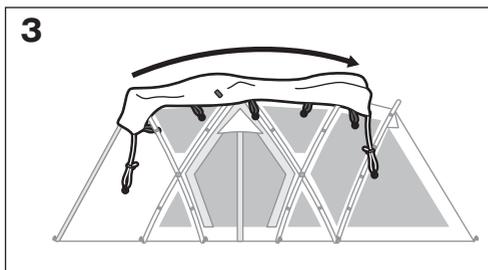
シールドルーフを裏面を上にして広げ、本体との接続箇所を確認します。

シールドルーフはリッジポールを通す穴が見える方が裏です。



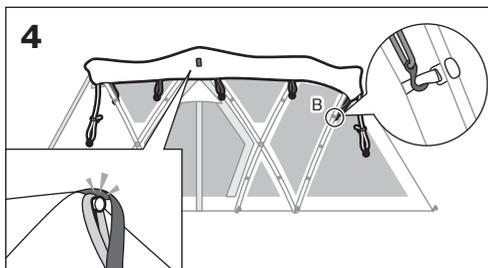
「A」の箇所のフックを掛けます。

裏返しのまま「A」の箇所のフックを掛けます。反対側の「A」の箇所も同様にフックを掛けます。



ひっくり返しながらリビングシェルロングPro.に掛けます。

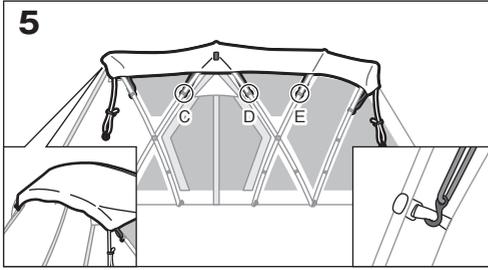
「A」のフックが外れないように、本体をひっくり返しながら後ろへ掛けていきます。



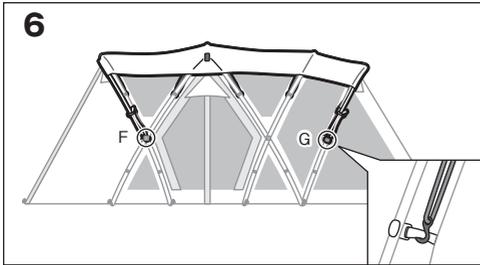
「B」の箇所のフックを掛けます。

反対側の「B」の箇所も同様にフックを掛けます。

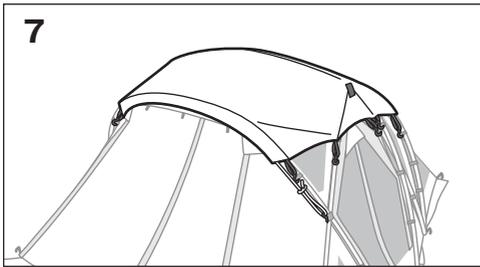
このとき、リッジポールの先端が穴から出ていることを確認してください。



5 「C」「D」「E」の箇所のフックを掛けます。
反対側の箇所も同様にフックを掛けます。
このとき、一番端のフレーム(前後共)にもシールドルー
フが被っていることを確認してください。

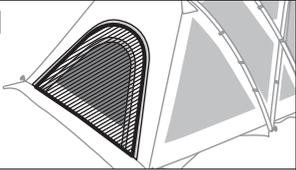
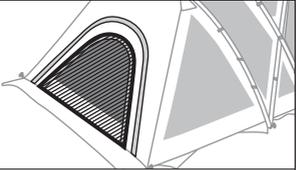


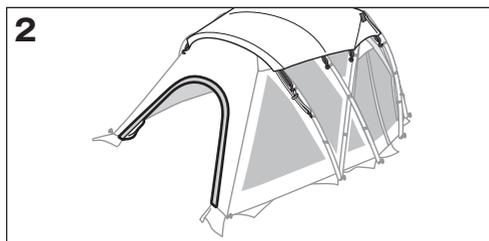
6 「F」「G」の箇所のフックを掛けます
フックを掛け自在金具を調整します。反対側の箇所も同
様にフックを掛け、自在金具を調整します。



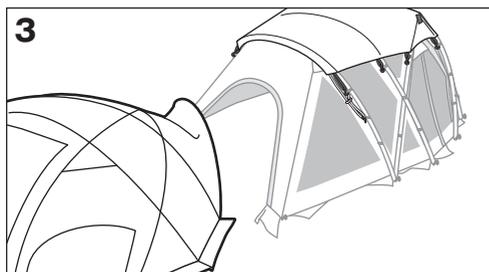
7 ルーフシート全体にシワができないように、テンショ
ンを調整します。

テントとの接続方法

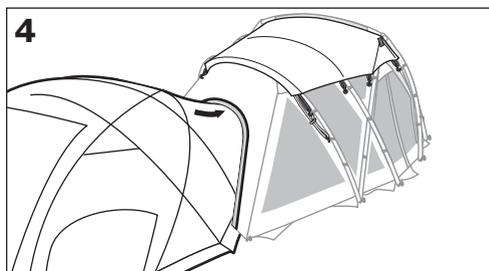
<p>1</p> 		<p>接続するテントに応じて、巻き上げるパネルを確認します。 接続口となるパネルは2種類あります。 ランドブリーズ6の場合は大きいパネルを、ランドブリーズ4の場合は小さいパネルを使用します。 ※以下、ランドブリーズ6の場合として手順説明をしますが、要領は同じです。</p>
<p>SD-636 ランドブリーズ6 SD-507 ドッグドームPro.6 SD-507IV ドッグドームPro.6 アイボリー SDE-001RH アメニティドームM SDE-003RH アメニティドームLの場合</p>	<p>SD-634 ランドブリーズ4 SDE-002RH アメニティドームSの場合</p>	



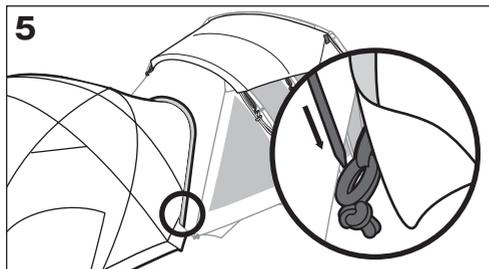
接続口となるパネルを巻き上げます。
 接続するテントに応じてパネルを巻き上げます。



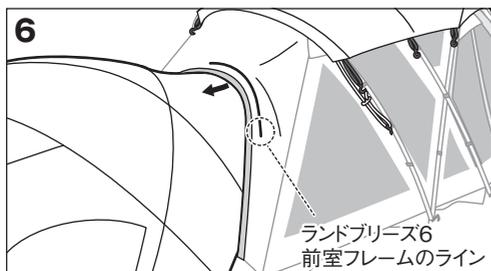
ランドブリーズ6を立ち上げた状態
 で準備します。
 ランドブリーズ6を立ち上げた状態（ベグダウンはしません）で準備します。



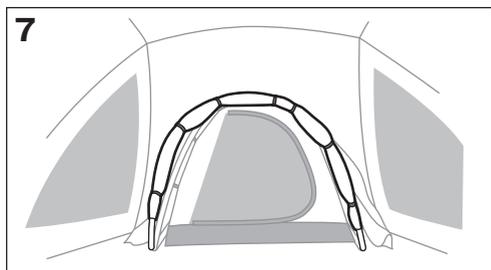
ランドブリーズ6の前室フレーム部
 入れます。



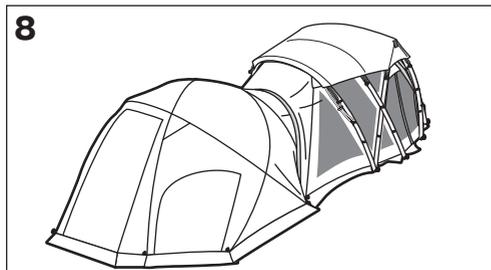
シェルターの接続口両端の
ゴムループをベグダウンします。
 パネルの大きさに応じたゴムループをベグダウンしてください。



6 ランドブリーズ6を後ろへ引いて調整します。
ランドブリーズ6の前室フレームのラインが少し浮き出る
くらいが目安です。
※強く引きすぎると接続口から前室部分が外れますので
少しづつ力を加えてください。

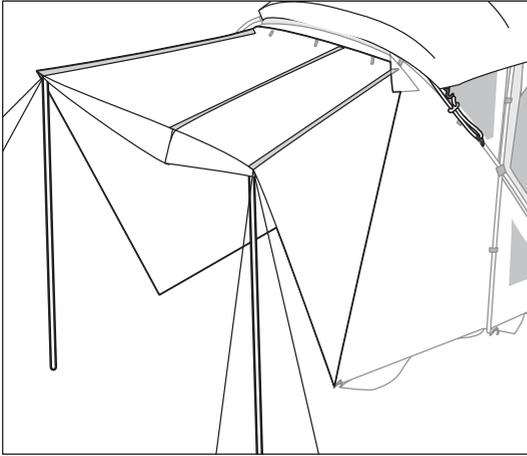


7 シェルターの中に入り、ランドブリーズ6の前室を巻
き上げます。



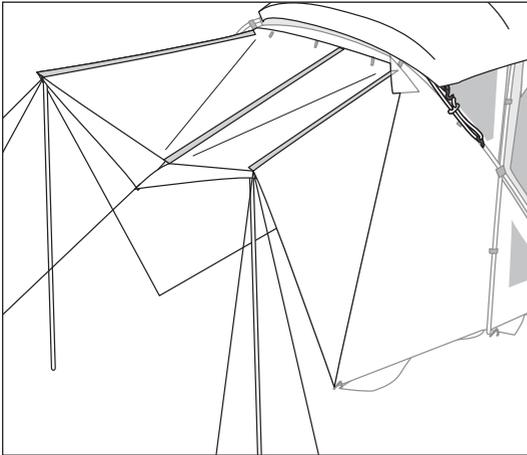
8 ランドブリーズ6をペグダウンし、
全体を調整して完成です。
ランドブリーズ6をペグダウンし、最後に全体を見て、調整
ベルトの締め具合やロープの引き具合などを調整して、
接続の完成です。

ドアパネルを跳ね上げる場合



ドアパネルのハネ上げ

ドアパネルは付属のアップライトポールを使用してハネあげることが可能です。



雨水溜まり対策

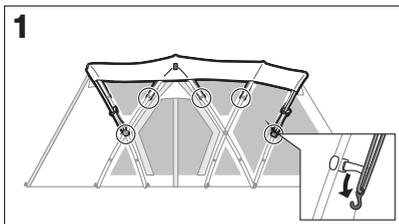
ドアパネルのマッドスカートに付いているグロメットにロープを通します。そのロープをペグダウンし、パネルを下げる事で雨水が溜まるのを軽減します。

撤収・収納時の注意事項

- 十分に乾燥してから収納してください。
- 強風時は、風が収まるのを待ってから撤収してください。
- インナールーム等を取り付けた場合や、テントを接続していた場合は、必ずインナールームやテントを本体から取り外してから撤収をはじめてください。
- シェルターの中に何も入っていないこと、すべてのパネルや窓部のファスナーが閉まっていることを確認してから撤収をはじめてください。
- 撤収の前にビルディングテープのY字型とI字型のバックルを接続してください。次回設営時にペグダウンしやすくなります。
- フレームをピンから外す時は、フレームがはね返り危険です。フレームにテンションがかからなくなるまでフレームの先端をしっかり持ち、放さないでください。
- スリーブからフレームを取り出す際は、必ず押し出しながら取り出してください。フレームを引きながら取り出すと、スリーブの中で連結部が外れ、生地をはさんで傷つける可能性があります。
- フレームは必ず毎回中央付近から折りたたんでください。端から折りたたむとフレーム内部のショックコードの伸びや切れ、フレームの曲がりや折れの原因になります。
- ペグはすべて抜き、汚れを落としてペグケースに頭を下に向けて収納してください。フレームはすべてフレームケースに収納してください。むき出しの状態で収納すると、本体生地やキャリアバッグ等を傷付けることがあります。
- 付属品の紛失、ペグの抜き忘れにご注意ください。

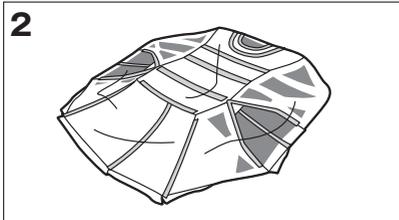
撤収の手順 必ず2人以上で撤収してください。

1



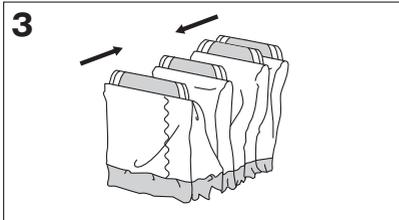
ルーフシートを本体から取り外します。
本体に取り付けてあるルーフシートのフックを全て取り外した後、ルーフシートを本体から取り外します。

2



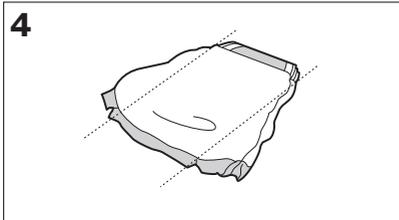
フレームを本体から取り外します。
すべてのベグを地面から抜き、フレームを本体から取り外します。

3



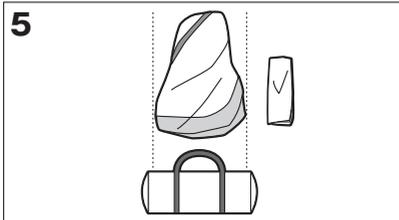
本体をたたみます。
2人がそれぞれスリーブの端付近に立ち、4本のスリーブをまとめて持ちスリーブを頂点として本体をたたみます。

4



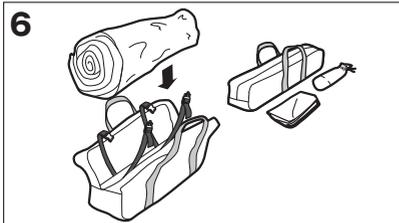
スリーブ部分を残してたたみます。

5



キャリーバッグの幅に合わせて本体とルーフシートを折りたたみます。

6



丸めて収納します。
本体を空気を抜きながら丸め、キャリーバッグのコンプレッションベルトで巻き絞りを、キャリーバッグに収納してください。
フレームやベグはそれぞれ付属のフレームケース、ベグケースに入れ、キャリーバッグに収納してください。

結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特にテントやシェルター等の限られた空間では、中にいる人間の水分が呼吸や汗などにより空気中に放出され水蒸気となり、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のため、こまめに適時換気を行ってください。

撥水・防水性能について

- 本体やルーフシートには高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

紫外線の影響について

- 本製品にはフライシートの生地にUVカット加工を施しています。
※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。
- シェルターの素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
- 紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合いを超えたものは弊社でも修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

- 本製品はポリエステル生地を組み合わせで使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落としてから保管してください。
- フレームを通した状態のまま逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、フレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。
- 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
- 小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合いを超えたものは修理できない場合があります。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングが一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 使用する際にフレームが折れてしまった場合は、応急処置として速やかに添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収をしてください。
- 次回の使用に備え、ロープやベグなどの付属品も含め、上記の通り十分に保守、点検をしてください。

品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期してありますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証、修理できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやサビによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
10. 他社製品との組合せによる故障。

修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 - 1.保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 - 2.保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

スペック

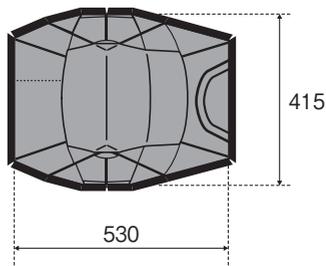
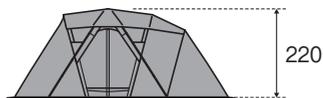
●セット内容: 本体、ルーフシート、Aフレーム(×2)、リッジポール(×1)、Cフレーム(×2)、テントフレーム(×1)、アップライトポール(190cm×2)、ジュラルミンペグ(21cm×26)、自在付きロープ(二又用7m×2、3.5m×4、リング付2m×4)、シームグリップ剤、キャリーバッグ、フレームケース、ペグケース

●材質: ルーフ部 / 150Dポリエステルオックス・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム・UVカット加工・テフロン撥水加工、ウォール部 / 150Dポリエステルオックス・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム・UVカット加工・テフロン撥水加工、マッドスカート / 210Dポリエステルオックス・PUコーティング、ルーフシート / 75Dポリエステルタフタ・PUコーティング耐水圧1,800mmミニマム・UVカット加工・テフロン撥水加工、フレーム / A6061 (φ16mm、φ19mm)

●キャリーバッグサイズ: 84×30×37(h) cm

●重量: 20.2kg

単位はcm



不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピークユーザーサービス

 **0120-010-660** (9:00~17:00)

Email: userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

Tel. 0256-46-5858 / Fax. 0256-46-5860

www.snowpeak.co.jp

MADE IN CHINA